

〈 連載 (229) 〉

ピレウスからの近距離フェリー

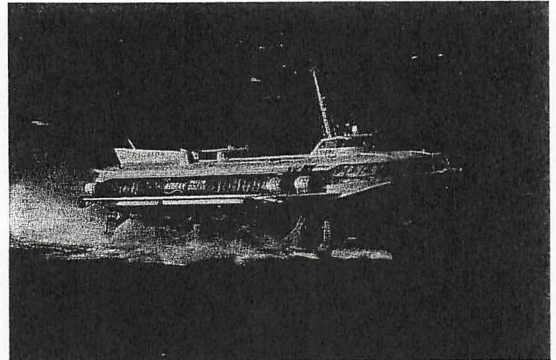


大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授
池田 良穂

前回に引き続き、ギリシアのピレウス港の近況の紹介をしたい。今回は、ピレウス港のすぐ沖合いに浮かぶエギナ島とサラミス島への航路である。いずれも在来船で1時間以内の航路で、頻繁にフェリー便が運航されている。

まずエギナ島へは、2社が水中翼船、3社が旅客カーフェリーを運航している。水中翼船は、ロシア製のコメタ級で、このタイプは1000隻以上が建造され、今でも世界中で就航しているベストセラーとも言える高速船である。

ピレウス港の一番奥の一画に、エギナ島への水中翼船乗場があり、毎便、乗客がこの水中翼船に乗るために長蛇の列を作っている。筆者は、椅子に縛り付けられたままで船旅をしなければならない水中翼船に乗ろうという気にはなかなかないのだが、少しでも早く目的地に着ける高速船へのニーズは高いようだ。離島への交通手段として、運賃が多少高くても速い船を選択するのは洋の東西を問わないらしい。

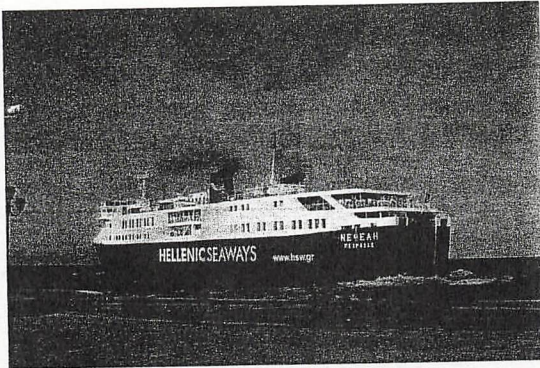


ロシア製のコメタ級水中翼船

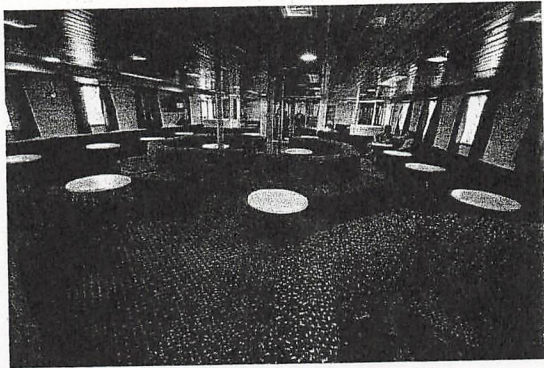
ピレウス滞在中、在来型カーフェリーでこのエギナ島に2往復したが、運航会社も船もできるだけ変えるようにして、全部で4隻のフェリーに乗船することができた。

しかし、まず港で困ったのは、岸壁に並ぶチケット売り場の行き先表示がほとんどギリシア文字なこと。πやαなどのギリシア文字といえば、日本では数学の教科書の数式に使うだけなのだが、ギリシアでは全ての言葉がギリシア文字で書かれており、さっぱり意味が分からない。手持ちの地図の中での表示も英語なので、その対応がつかないのだ。そのようなわけで岸壁をうろうるとまごついていると、着岸中のフェ

リーの船尾に「行き先」と「出港時刻」が掲げられており、こちらには英語表示もあるのに気がついた。その中からエギナという表示を探し当てて、船員にチケット売り場を教えてもらい、なんとか窓口でチケットを購入することができた。



乗船したエギナ島行きフェリー



エギナ島行きフェリーの内部

乗船は、船尾のランプウェイから車と一緒に車両甲板に入る。大きな荷物は、車両甲板の一面に置いておけるようになっているが、エスカレーターもエレベーターもなく、バリアフリー化は進んでいない。

階段を上ると客室スペースがあり、ラウンジ風でバーもあって快適な船旅が楽しめるようになっている。日本の短距離フェリーでも、最近では内装のグレードの高いフェリーが現れているが、それに劣らない。また、嬉しいのはオープンデッキが広く、椅

子がたくさんあることだ。海の風を受けながらの航海が楽しめるし、行きかう船の写真も撮ることができる。

ピレウスの港内には、5～6隻のクルーズ客船が停泊して活況を呈している。また、エーゲ海の島々に通うフェリーがたくさん岸壁に停泊している。そうした客船群の中を通過して、エギナ島行きのフェリーは港外に出る。日本の港では、港外に停泊している船の数が少なくなったが、ギリシア船主のお膝もとのピレウス港の沖には、大小さまざまな貨物船がたくさんアンカーをうっていた。かつては、ぼろぼろの老朽船がたくさん係船されていたが、意外に新しい船が多い。ギリシア船主の経営方針も、EUに加盟したこともあって近代化したのかもしれない。

ピレウスを出たフェリーは約1時間でエギナ島に到着した。この日は風が強く海に突き出した岸壁は、防波堤もないので一部波が洗っている状態だったが、フェリーは何事もないかのように船尾から着岸した。波に洗われる岸壁を靴を濡らさないように気をつけながら上陸した。

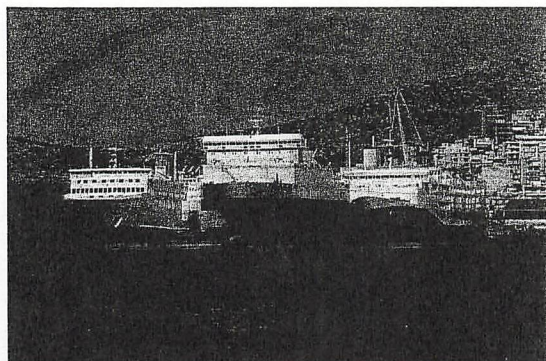
エギナ島はなかなか綺麗な島で、港の周りにはカフェやレストランが並んでいる。島の特産品はピスタチオらしく、ピスタチオを山積みした屋台がたくさん出ていた。同じフェリーで帰るのは芸がないので、次の便まで陸上でピスタチオをつまみにワインを飲みながら待った。次第に波も高くなり、フェリーがはたして着岸できるか心配したが、次のフェリーは何事もなかったように、沖で反転してバックしてきて船尾か

ら着岸。さっそくこのフェリーに乗船してピレウスに戻った。

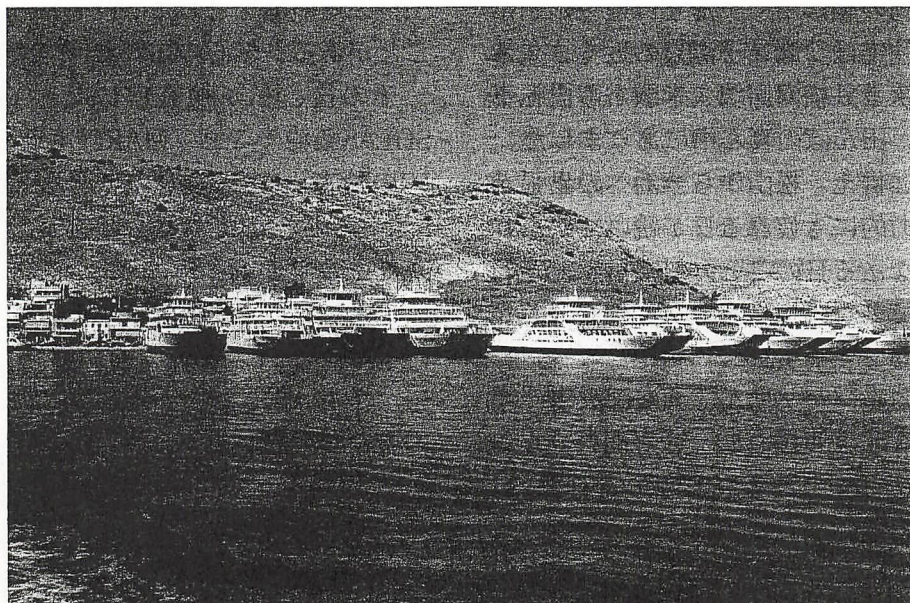
ピレウス港でサラミス島への船便を探した。この航路には小さな純客船が就航しているとの情報を得たが、乗り場の表示もない。それらしき船を捜して、船員に聞くと確かにサラミス行きとのこと。サラミス島への航路は、途中、ピレウス港のコンテナターミナル、造船所などの沿岸を航海するので、たくさんの船を見ることができる。コンテナ埠頭には、コンテナ船の姿はなかったが、沿岸の造船所にはたくさんの改造中の船がつながれており、元日本船の姿も幾隻もみることができた。ここで大改造されて、再び、エーゲ海航路や世界の海にでていくのだ。

約40分でサラミス島に到着。ここにはギリシア海軍の基地があり、以前に来た時に

は、港の写真を撮っているだけで船員に注意されたが、今回は何の注意もなかった。サラミス島の港には驚くほどたくさんのフェリーが停泊しており、ギリシア本土との15分ほどの航路を往復している。こうしたフェリーの盛況ぶりを見ると、日本の離島航路のフェリーもぜひ元気になって欲しいと思う。



改造中の中古船群。写っている船の中の3隻が元日本船



サラミス島の港に並ぶフェリー群は圧巻